【学校教育目標】人との関わりの中で 真の逞しさを身につけた 児童生徒の育成

泉だより No.11

令和５年１月５日
京都市立東山泉小中学校
校長 岩田智典

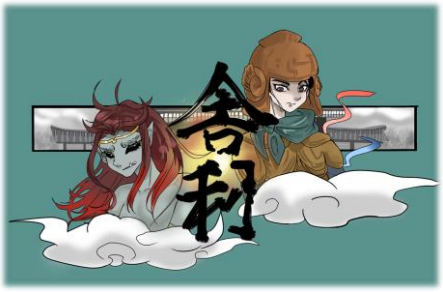
新年を迎えて…

明けましておめでとうございます。令和5年（2023年）元旦は、穏やな日差しの中で新年を迎えることができました。東学舎のある御寺泉涌寺参道では、新春恒例の「七福神」ののぼりが立っています。穏やかな新春を迎えたのと同様、東山泉の子どもたちが、心身ともに健やかに育ってくれる１年でありたいと願っております。

さて、令和4年度もあと3か月となりました。東山泉の子どもたちが無事卒業、そして進級できるように教職員一同力を合わせて参りますので、地域、保護者の方々におかれましては、何卒、ご理解ご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

文部科学省指定「授業時数特例校」取組

8年生・能楽鑑賞会での学び（能楽堂「嘉祥閣」にて）



8年生では、夏休み以降の音楽の授業で、能「舎利」について学習を進めています。能「舎利」は、東学舎のほど近くにある「御寺泉涌寺」が物語の舞台となっています。御寺泉涌寺を訪ね、能「舎利」 の背景を学んだ後、「舎利」の中の謡の一節を謡う学習に取り組んできました。

12月21日、能楽堂「嘉祥閣」を訪れ、これまでの学びをさらに深める鑑賞会を行いました。今年度、能についての講演や謡の指導等でお世話になっている観世流能楽師の吉浪 壽晃先生より、能舞台の特徴や能楽堂の歴史についてお話を聞かせていただいた後、吉浪先生と一緒に学習してきた謡の一節を謡いました。8年生の謡に合わせて仕舞を演じていただいたり、お囃子の演奏に合わせて謡わせていただいたりと、大変貴重な体験をさせていただきました。能楽堂の響きや、謡の節の間に心地よく鳴る鼓の音色などを全身で感じ取りながら謡っているうちに、8年生の声がどんどん豊かな響きになっていきました。

素晴らしい体験の後には、能「舎利」の後半部分を鑑賞しました。物語の背景や内容、登場人物の想いをしっかり理解している8年生は、とても熱心に鑑賞し、能の魅力をたっぷりと味わっていました。鑑賞した後には、大きな感動とともに、「もっと能のことを知りたい。」という気持ちが生まれていました。

以下は8年生の感想です。

○舞台の話を聞かせてもらったあとに、舞台の下や背景を見て、お客さんや演者のための工夫が沢山ほどこしてあることを体感したと同時に、今の形になるまでの長い歴史を感じました。また、それらの工夫と謡（うたい）や囃子（はやし）の独特の響きを今までに感じたことがなく、実際の音の迫力と伝統に感動しました。授業で映像を見たときと、実際に見たときでは音の聞こえ方も演者の動きも違って見え、「能」の魅力を感じました。

○これがかつて泉涌寺で催された「能の音楽」なのだと、改めて気づきました。
これを私たちは自身で謡（うた）うことにより、「能」をじかに感じることが出来たので、もし私が他の学年や地域の方に感じたことを伝えるならば、650 年の積重ねでできた「能の音楽」の素晴らしさです。あの四つの楽器（笛・小鼓・大鼓・太鼓）が奏でられた瞬間、自分たちの謡（うたい）が急に一つの「音楽」になったと実感できました。